

2015年度『蔵前ベンチャー賞』・『蔵前特別賞』 授与式・受賞者記念講演会

一般社団法人蔵前工業会はベンチャーの育成を目的に2007年度から『蔵前ベンチャー賞』を設置しました。今年で第9回になります。東工大・蔵前の有望ベンチャーの発掘・表彰を行ってきました。

また2009年度から『蔵前特別賞』を設置し、社会に顕著に貢献した個人および企業を表彰しています。



前列左より受賞者、國枝 博昭氏、Michele Guarnieri氏、盛田 正明氏、上杉 秀樹氏、三澤 茂計氏
後列左より谷 明人 経産省技術総括審議官、三島 良直 東工大学長、石田 義雄 理事長

1. 授与式、記念講演会

2015年11月24日(火) 東工大蔵前会館くらまえホールで行われました。[参加者134名(うち学生40名)]

2015年度蔵前ベンチャー賞

企業名, 受賞者	受賞理由
(1) ㈱ハイボット 取締役Chairman：広瀬 茂男氏 1973年東工大制御修士，1976年博士， 1992年東工大教授，2013年名誉教授 取締役CTO：Michele Guarnieri氏 2004年東工大機械宇宙システム修士，2007年博士	広瀬研究室の成果を基に2004年創業。 東工大発ベンチャー。 様々な特殊環境で活躍する，独創的な最先端ロボット を提供している。ロボット産業のパイオニアとして本 格的な事業展開が期待される。
(2) ㈱シーピーエージャパン 代表取締役：國枝 博昭氏 1973年東工大電子卒，1978年博士， 1994年東工大教授	指紋認証は，①公安関係，②電子錠やネットワーク端 末機，③スマホやネット決済などのユーザー認証に利 用されている。大学研究室発ベンチャーを発展させて， 独自の事業分野を開拓している。
(3) ㈱コモドソリューションズ 代表取締役社長：上杉 秀樹氏 1979年東工大電気電子卒	ハードウェア技術およびソフトウェア技術を活用し医療 連携分野，スマートフォン分野など多方面で事業展開 を行っている。独自の技術力と創業以来の一貫した経 営方針により，創業したベンチャーを堅実に成長させた。

企業名, 受賞者	受賞理由
(4) 中央葡萄酒(株) 代表取締役：三澤 茂計氏 1973年東工大応用化学卒, 三菱商事入社 1982年中央葡萄酒入社, 1989年社長	1923年三澤 長太郎氏が創業した。茂計氏は4代目。世界的なワインコンクール（英国）「デカンター・ワールド・ワイン・アワード2014」で金賞授賞。家業を引き継ぎ、これを世界一流のワイナリーに革新した中興の祖。

2015年度蔵前特別賞

受賞者	受賞理由
(1) 盛田 正明氏 盛田正明テニス・ファンド 会長 1951年東工大電気化学卒 元ソニー副社長 元ソニー生命会長 日本テニス協会名誉会長	テニスで世界のトップに立てる選手の養成を目標に私財を投じて盛田正明テニス・ファンドを設立し、厳しい選考により才能のあるジュニア選手を見出して米国へ送り出してきた。 錦織 圭選手は期待に応えて世界のトップ選手となり、日本の青少年に夢を与えている。この活動を通じて社会に顕著に貢献した。



2. 『蔵前ベンチャー賞』授賞記念講演1 「ハイボット社の歩みと将来への抱負」

株式会社ハイボット 取締役CTO Michele Guarnieri 氏



株式会社ハイボット
取締役CTO
Michele Guarnieri氏

株式会社ハイボットは、2004年4月に、東工大敷地内で創業しました。

当時、理工学研究科 機械宇宙システム専攻 広瀬福島研究所所属の広瀬茂男教授、福島文彦教授のほか、研究員と留学生を含む6名で創業して以来、ベンチャーの様々な壁を乗り越えながら成長してきました。当社の創業当時の理念は、今

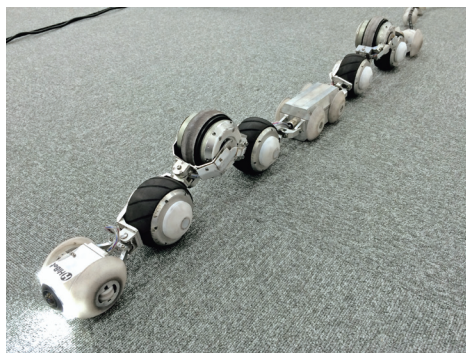


写真 小径配管点検ロボット THE SBOT

でも大切なハイボット企業理念として受け継がれています。それは、「真に実用的であり人間社会に役立つロボット技術を提供するイノベティブな企業であること」です。この理念のもと、学術分野にかぎられていたロボット技術を産業分野に適應する新しいアプリケーションを開発し続け、過去11年の期間に、様々な産業・サービス ロボットを提供してきました。

主なロボットとして、超高压送電線ロボット「Expliner (エクスプライナー)」と小径配管点検ロボット「THESBOT (テスポット)」があります。これらはエンドユーザーの現場からの切実なニ

ズを受けて、共同開発したものです。いずれもハイボットの理念を具体化したロボットです。前者は2010年の第4回ロボット大会で「中小企業基盤整備機構理事長賞」を、後者は2015年にEdison Award (USA_NY) を受賞しました。このような功績を認めて頂き、2015年の世界経済フォーラムではTechnology Pioneerとして選ばれました。ベンチャーキャピタルからの投資も受け、今後は経営体制を強化し、ハイボット製品を世界市場に出していくビジョンのもと、更なる成長を続けていきたいと考えます。

3. 『蔵前ベンチャー賞』授賞記念講演2 「指紋認証ビジネス」

株式会社 シービーエー ジャパン 代表取締役 國枝 博昭氏



株式会社
シービーエー ジャパン
代表取締役 國枝 博昭氏

2001年の政府の「大学発ベンチャー1000社」プロジェクトの一環として研究と事業とのギャップ(死の谷)を埋める“技術の商用化”(Commercialization of Technology)の実践を目標として起業しました。

指紋市場は当初10年間の成長は遅く、業績は伸びませんでした。その上、他社製の多くの指紋センサーを利用した指紋製品を開発販売しましたが、センサー会社は次々と事業から撤退したため、その度に他社の指紋センサーに乗り換えるなど苦労を重ねました。

最終的には、センサー型も、面型から表面を指で滑らすスワイプ型へと変化し、シャープ製ドコモ携帯100万台に指紋認証を搭載するなどの実績を得ました。いくつかの新たな技術の開発がこの実績を支えていました。

指紋市場は、2010年から、成熟期に向けて急成長しています。アップルのスマートフォンへの指紋認証機能搭載をきっかけに、指紋認証が市場での市民権を得て、個人用、家庭、業務、公的用の応

用分野が広がっています。

会社業務は、2000年代ではセンサー、チップ、ソフト、組み込みモジュールの個別部品システムを利用したソリューション販売でしたが、2010年代ではLSI技術による個別部



写真 携帯電話に搭載された指紋認証

品の有機的結び付きが重要で、当社の戦略である指紋センサーからソフトウェア、応用ソフトまでの垂直統合的ソリューションの指紋LSI技術が脚光を浴びています。その結果2014年には17億円の売り上げまで成長し、スマートフォン指紋を中心に活躍しています。

不毛地帯と言われる日本の開発型ベンチャー事業において、グローバル市場と競合可能な大学発ベンチャーは大きな起爆剤になると考えます。世界を牽引する“モノづくり”は、ハードウェア製造だけでなく、モノづくりのための設計技術も重要であると感じています。蔵前ベンチャー賞受賞に際して、東京工業大学の支援に厚く感謝します。

4. 『歳前ベンチャー賞』授賞記念講演3 「我が社の25年間の歩み」

株式会社 コモドソリューションズ 代表取締役社長 上杉 秀樹氏



株式会社
コモドソリューションズ
代表取締役社長
上杉 秀樹氏

この度は第9回歳前ベンチャー賞に当社をご選出いただき誠にありがとうございます。創業して25年間赤字を出さずにコツコツと地道にやってきたことをご評価頂けたのだと理解しております。

当社ではソフトウェア受託開発を中心とした事業を展開しています。カラオケの各種装置開発やテロップ等の編集ツール開発、販売管理システム

<<経営理念>>

**より便利な、より快適な、
より幸せな社会を実現する**



コモドソリューションズは
お客様のICT利用
システム開発にかかわる
全ての問題を解決致します

等の業務システム開発、宇宙関連施設における画像・通信制御システム開発、スマホ向けアプリ開発など幅広い開発に従事しています。ソフトウェア開発だけでなく、企画・営業支援・導入・運用・保守などシステムに関するすべてのサービスを一気通貫で提供しております。

システムがなくてはならない時代になり、システムの社会的重要性が増す中で、「より便利な、より快適な、より幸せな社会を実現する」ために、我々はこの仕事をしているのだと考え、経営理念として掲げております。

昨今、IoTというキーワードを良く耳にしますが、当社では創業当時から、デバイス開発とWeb開発の実績を積み上げてきており、遠隔医療等にも取り組んできました。この強みを活かして、温湿度センサーとスマートフォンとWebシステムからなる「熱中症対策サポーター」を開発しました。受託開発と共にこの自社ソリューションを展開し、技術レイヤ・売上利益・やりがい、それぞれのバランスのとれた会社を目指し、事業を継続していきたいと思っております。今後ともご支援の程、宜しくお願ひ申し上げます。

5. 『歳前ベンチャー賞』授賞記念講演4 「GRACE WINE 甲州への挑戦」

中央葡萄酒株式会社 代表取締役 三澤 茂計氏



中央葡萄酒株式会社
代表取締役 三澤 茂計氏
低価格ワインの普及は、1998年の赤ワインブームを凌ぎ、輸入ワインを中心に第7次ワインブームを引き起こしました。国産ブドウを原料とした日本ワインもその恩恵を受けています。日本を代表する甲州は、かつての山梨県の呼び名と同じであった

き起こしました。国産ブドウを原料とした日本ワインもその恩恵を受けています。日本を代表する甲州は、かつての山梨県の呼び名と同じであった



写真 ブドウ園風景

為に甲州ワインと山梨県産ワインが同一視されるくらいがあります。

シルクロード経由で日本に伝播した甲州の葉緑

体のDNAに注目した研究は、中国の野生種ダヴィディと配列が一致しているのが突き止められました。葉緑体のDNAは母親から遺伝するために、ダヴィディは甲州の母方の祖母にあたることになります。ヒトのX染色体の成す女系の意味合いと重なります。長い間、我々は既存の県内ブドウに頼らざるを得ませんでした。この宿命をアイデンティティと捉え、将来に向けての勝沼の甲州を守る為に、自主グループ「勝沼ワイナリーズクラブ」を立ち上げました。

大先輩である東工大出身の浅井昭吾さんからの、輸出を念頭に置いての提言は、「ロンドンで勝負せよ」でした。10年の時を経てEU向け甲州

の輸出プロジェクトKoshu Of Japan(KOJ)が開始されました。ハイエンドのロンドン市場が日本ワインを鍛え上げました。

甲州を高畝式の本格的垣根栽培とするのは、未知なる挑戦でしたが、ブドウが熟さなければ出現しない風味を捉えることができ、また、品位あるブドウとしての凝縮感をもたらしました。

この間、世界で最も信頼される国際コンクールDecanter World Wine Awardsで日本のワインとして初めて金賞・トロフィーを受賞しました。

三島学長を始め本学からの温かいご支援に心より感謝します。

6. 『蔵前特別賞』授賞記念講演 「盛田正明テニス・ファンドの紹介」

盛田正明テニス・ファンド 会長 盛田 正明氏



盛田正明テニス・
ファンド

会長 盛田 正明氏

私は昭和26年電気化学科を卒業し、創立間もないソニーに入社をして以来47年間ソニーで働きましたが、その間、創業者の一人である井深 大氏の指導によって「他人のやらない事をやる、他人の出来ない事をやる」ことに徹して仕事をして来ました。これは、とてもキツイ事でしたが、やり甲斐の有る仕事でした。

平成10年にソニーを退職してから、これからの人生何をしようかと大変悩みましたが、矢張り井深さんの言う「他人の出来ない事をやってみよう」と思いました。併し自分の歳では、もう自分でやる事は出来ないの、子供に託してこの事を実現しようと考えました。

では、何をやるかと考えた時、テニスのウインブルドン大会などを何度も見て来た経験から「何故日本人選手はいないのだろうか？」と想っていた事を思い出し、テニスで世界のトップに行けるような選手を作る事にチャレンジしようと思うに至りました。

また「何故日本人選手は世界のトップに行けな



写真 東工大テニス部 黒崎まどかさんから花束贈呈

いのか？」を探ってみると、世界のテニス界のトップに行くにはテニスの技術が良いだけではダメだと言う事が分かって来ました。つまり、日本人が世界の大会でトップ選手になる為には、世界中、何処の国のコートでも、然もいつ自分の試合が始まるか判らない状況でも、常にトップコンディションで戦え、5時間にわたる試合にも耐えなければならぬのです。

これが出来る様にするには、子供の頃から外国で暮らさせ、外国のテニス大会に出て、外国を外国と思わないで過ごせる選手を作れば良いのだという仮説を立て、その仮説を実際にやってみよう

という事を考えました。それで、将来性のある12～13才のジュニア選手を選んで、アメリカの厳しいトレーニングに耐えさせる事を始めました。

平成12年にこのプロジェクトを始めて今年ま

でに23人のジュニアをアメリカのキャンプに送りましたが、毎年 of 厳しいテストを通過して18才のプロになるまで頑張り抜いたジュニアは3人しかいませんでした。その最初の一人が錦織圭選手です。

7. 交流会



交流会【122名（うち学生40名）】



8. 感想

株式会社ハイボット Michele Guarnieri様の講演は、様々な特殊環境で活躍する極限作業型ロボットの紹介があり、40年以上の長きにわたり、独創的な最先端ロボットを提供してきた広瀬研究室の地道な活動と新規ビジネスを生み出す取り組みについてお話されました。起業家人材を育成するというベンチャー精神についても、強く感じられました。参加者の学生や若い技術者にも大きな刺激を与えたものと思います。

株式会社シービーエージャパン 國枝様の講演は、「技術の事業化」実践を目的に創業し、当初指紋市場は立ち上がりが遅かったものの、スマートフォンの登場を機に、急成長を実現できた経緯をお話されました。指紋認証ソリューションが世界的にも必須な時代となっています。ベンチャー創業時から現在まで着実に事業展開してきた事情とご苦労が良くわかりました。

株式会社コモドソリューションズの上杉様の講演では、創業以来デバイス開発とWeb開発の実績を積み上げ、自社ソリューションも展開することで、幾度もあった危機を乗り越えながら、25周年を迎えられたとお話されました。その経営手腕に敬服いたします。

中央葡萄酒の三澤様の講演では、甲州ワインの葉緑素DNA研究、海外市場での展開や高畝式の本格垣根栽培への挑戦についてお話されました。チャレンジ精神に深く敬意を表したいと思います。

盛田正明様の講演は、ソニー創業者である井深大氏のエピソードから説き起こし、将来性のあるジュニア選手を選抜して厳しく育成することにより、世界のテニス界のトップに行ける選手を育てることに挑戦しようと思うに至った経緯をお話されました。錦織圭選手のエピソードは大変興味深いものでした。

今回の講演会参加者は134名、その後の交流会参加者は122名となり、大変盛況でした。交流会では、講演者を中心にして会話の輪が広がり、今年は学生の参加者が40名と多く活発な交流がされました。蔵前ベンチャー賞がベンチャー・中小企業の革新、活性化の一助となれば幸いです。また、蔵前特別賞により、東工大卒業生の多方面での活躍や社会貢献を多数の方に知って頂きたいと思ひます。

蔵前ベンチャー相談室コーディネーター

豊田順一（S48年修制）記